

今月のことば

世界中どこを探しても
あなたの代わりは
おりません

東本願寺の法語行燈（あんどん）より

お経には無有代者（代わる者あることなし）とあります。他人に代わってもらうことも代わってあげることもできない、そういういのちを生きている。それは、自分が自分の人生の責任者であり、唯一無二の尊い存在であるということなのでしょう。

INFORMATION

7月公開同朋会

7月13日(土)

午後1時から

法話

エレクトーン演奏

茶話会

今年もエレクトーン奏者 Sono さんがやってきます。本堂いっぱいにお壮大な音楽が広がります。お楽しみに！

観劇「前進座」特別公演

「花こぶし」親鸞聖人と恵信尼さま

7月29日(月)13:30開場 14:00開演

A席6,000円 B席4,500円

場所 東京エレクtronホール宮城

まだまだお席があるようです。ぜひお出掛けください。お問い合わせは徳泉寺まで。

住職法話

正信偈「法蔵菩薩因位時」より

菩薩（ぼさつ）とはもともと「仏陀（目覚めた人）」になる前のお釈迦様のことをさしました。仏ただ一人悟っただけでは救いになりません。誰かに伝えていくということがなければ衆生の救いにはならないのです。そこで法蔵菩薩がまず、衆生を救いたいと四十八願を立て、その願いのために途方もない辛苦を越えて悟りを開かれました。そこから願いを起こして実践するものを菩薩と呼ぶようになりました。

前任職法話

歎異抄「第一章」より

歎異抄第一章には「罪悪深重 煩惱熾盛（ざいあくじんじゅう ぼんのうしじょう）の衆生」という言葉があります。私たち衆生はとても重い罪を背負っている存在だということです。どんな罪なのかというと、他の命を奪ってしか生きられない存在だ、という罪です。そんな罪深い私たちはいただいた命の分まで生きるしかありません。「焼いた魚もにんじんもとられたからには食べてくれと思ってるやるな」という短い詩がありますが、その食べられる命の声が聞こえているでしょうか。なんでも私中心になっているとその声は聞こえません。そこで阿弥陀仏が私に呼びかけてくれるのです。気づけ気づけ、あなたも私も同じ凡夫だと。そのことに気づかされた時、自然と頭が下がるのです。

六月同朋会(第二土曜日)

六月八日

時 午後一時から三時半

内容 勤行

法話(正信偈・歎異抄)

茶話会

茶菓代 500円

法話を聞いておしゃべりしながらお茶を飲む、月に一度の大切な会です

ほうもりのひとりごと

表面のチャリティーイベントのエピソードには続きがあって、話を聞いていた息子さんが「お母さん、すごいよ。この話は高校生にも聞かせた方がいいよ。」と言ってくれたそうです。それを受けて、なんと秋には息子さんの通う高校でお話しすることが決まりました。進路選択を控えた高校生に広い世界を知らせる良い機会になるのではないかと楽しみです。

五月同朋会より